

# 2023 年度事業計画書

2022 年度から始まった改革を更に推進し、教育学科や学生委員会と連携してその発展に寄与するとともに、本会の一層の充実・発展に向けて、2023 年度の事業を以下のように展開する。

## 1. 会員情報の管理

卒業生会員との連携を図りながら、個人情報保護を踏まえた上で、会員情報を効率的かつ有効的に管理・活用する方向性を引き続き探る。また、現在使用している Zoho CRM が営業者向けで当会に適した商品ではないことと、提供会社の管理費値上げ要求もあり、1年後に最適でリーズナブルな CRM への変更を目指して情報収集に努力する。

## 2. 情報配信

- ① 会報誌「葦」の発行を年1回とする。(発行賃・送料の値上げと、会費収入の激減に対応)
- ② メールアドレス登録会員を増やし、葦のデジタル配信を更に推進。
- ③ メールマガジンを配信して、恒例イベントや小規模セミナーのお知らせ・ボランティア募集・会費納入のお願いといった、会員との連携を深めるツールとする。
- ④ SNS にも様々な情報を配信し、メールアドレス会員の増員を目指す。
- ⑤ HP の掲載内容の変更・刷新。今年度は組織・会則の変更が予定されているため、固定ページを大幅な刷新が必要。併せて学科や学科の会の行事、連絡事項、理事会の活動の記録簿としての役割を、更に明確にする。また、七十周年記念誌を HP 中のコーナーとして新たに設け、連載の形で少しずつ完成を図る。

## 3. イベント

- ① 学縁のつどい 2023 年 5 月 27 日 オンラインで総会後に開催
- ② ホームカミングデー 藤田先生・学生委員の企画実践を実務理事会がサポート
- ③ 懇話会 開催予定(詳細未定)
- ④ 小規模セミナー 年4~5回の開催を計画。初回 6 月後半を予定。  
(ワークバランス、子育て・教育、先端技術と生活、健康 etc.の分野で企画中)

## 4. 紀要「人間研究」

学科との費用分担や関係性など、引き続き協議。

## 5. 会計

- ① 「葦」の年1回発行とデジタル配信の促進で、現行のようなコンビニ振込票の送付ができなくなり、会費徴収システムが個別の銀行振込へと大幅に変化。どのように会費納入を促し、どのように

漏れなく会員情報に登録処理するか、実務理事会での綿密な審議が必要。

② 予測される会費収入の激減に備えた経費の見直しを引き続き行う。

#### 6. 会則改定

昨年度のワーキンググループの答申案をベースに、引き続き理事会で審議。

#### 7. 文書管理

現在、学科会議室に保管された歴代の文書や備品の整理を引き続き行う。また、クラウドを活用したデジタル契約やテキストファイル、帳票などの保管システムを選択・導入予定。

#### 8. 回生委員会

長期にわたり有名無実化していた同委員会を、どのような形でクローズして行くかを慎重に審議。  
(会則改定とも関連)

#### 9. 理事会

通常は年5回開催(7月、9月、12月、翌年2月、4月)

#### 10. 研究室委員会、学生委員会、卒業生理事による実務者会議を随時開催

以上